

令和 2年10月 7日

令和2年度（第59回）農林水産祭天皇杯等三賞（天皇杯）の決定について

令和2年度（第59回）農林水産祭天皇杯等三賞の受賞者については、昨日開催された農林水産祭中央審査委員会第2回総会において各賞が決定され、本県からは、林産部門で下記のとおり受賞することが決定しました。

記

- 1 受賞内容 天皇杯
- 2 受章者名
有限会社上原樹苗 代表 上原和直（南相馬市）
- 3 部門 出品材
部門：林産部門 出品財：技術・ほ場（苗ほ）
- 4 選賞資格を得た農林水産祭参加表彰行事
令和元年度全国山林苗畑品評会 農林水産大臣賞

○農林水産祭

国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施されています。

○農林水産祭三賞

天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞

※ 7部門毎に上記 三賞がそれぞれ授与されます。

○受賞理由

「東日本大震災の被災地から全国へ、多様な苗木を届ける生産者」

有限会社上原樹苗は、東日本大震災で、社屋、苗畑及び各種機械の多くを津波で失う被害を受けながらも事業を継続し、コンテナ苗生産や作業の機械化等による効率化を進め、被災前の年間生産量（150万本）に対し、現在は200万本を超える生産量となるほか、針葉樹・広葉樹を合わせ常時100種類以上の樹種を生産する体制を築いた。また、女性の働きやすい環境整備に努め、多数採用するなど女性の活躍を支援している（別紙 受賞理由概要参照）。

担当部署 農林水産部森林整備課
副課長兼主任主査 宗方宏幸
直通 024-521-7435
県庁内線 3439

令和2年度天皇杯受賞者受賞理由概要
林産部門

東日本大震災の被災地から全国へ、多様な苗木を届ける生産者

○氏名又は名称 有限会社上原樹苗（代表 上原 和直）

○所在地 福島県南相馬市

○出品財 技術・ほ場（苗ほ）

○受賞理由

・地域の概要

南相馬市は、福島県の北東部に位置し、東北にありながら冬期間の降雪は殆どなく温暖で、夏は冷涼という寒暖差が少ない地域である。平成23年の東日本大震災で生じた津波により、当該地域沿岸部の多くが消失するなど、甚大な被害が発生した。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

有限会社上原樹苗は、明治初期に桑苗を生産したのが始まりで、昭和30年頃に造林用苗木の生産を開始した。東日本大震災で、社屋、苗畑及び各種機械の多くを津波で失う被害を受けながらも事業を継続し、コンテナ苗生産や作業の機械化等による効率化を進めた。その結果、被災前の年間生産量が150万本に対し、現在は200万本を超えており、本数・樹種数ともに他に類を見ない規模を誇る生産者となった。

・受賞者の特色

（1）幅広い需要に応えた苗木生産

スギ、ヒノキ、カラマツ、クロマツを針葉樹の山行苗木として主に生産しているが、森林生態系の多様性に対応した苗木供給を目指し、緑化木等苗木も含めて、針葉樹・広葉樹を合わせ常時100種類以上の樹種を生産する体制を築いている。販売先も北海道から沖縄まで全国に渡っており、各地の多様な樹種の需要に応じている。また、針葉樹については、裸苗からコンテナ苗へ栽培方法を段階的に移行しており、令和元年度は山行本数の約90%がコンテナ苗になっている。

（2）女性の活躍

重量物を扱う作業は可能な限り機械化を図っているほか、女性専用の休憩施設や従業員用のシャワー室を設置するなど、男女問わず働きやすい環境作りに配慮した結果、正規雇用職員の約7割を女性が占めている。また、育児介護休業等規程など、従業員が長く働き続けることができるよう各種制度も整備している。

・普及性と今後の発展方向

独自に最適化した培土の配合、作業機械や作業システムの改良、コンテナ苗や早世樹の育苗、栽培方法のデータベース化やマニュアル化等、様々な技術を保有した同社は、苗木生産者にとどまらず、造林・伐採を主とする事業体も含めて全国各地から視察を受け入れ、育苗技術の普及に努めている。苗木の供給だけでなく、地域の実情に応じた植栽樹種の提案等の森林づくり活動に関する情報発信など、苗木ビジネスの展開を牽引する立場として、今後更なる活躍が期待される。